箕輪町郷土博物館だより

令和８年　夏号

傘（かさ）

雨の多い梅雨の季節や、とつぜんの夕立など傘が必要ですね。今は太陽がサンサンとふりそそぐ夏の日にも日傘が手放せなくなってきました。昭和30年頃までは、庶民は竹の骨に紙を張り油を塗った骨の太い【番傘】などを使っていました。他に蛇の目のような丸い模様がある「蛇の目傘」があり、蛇の目傘の骨は細く、歌舞伎役者などが使って世間ではやりました。傘は末広がりなので縁起が良いとされ、結婚式などでも使われることがあり、嫁入り道具の１つでもありました。

みのわを知ろう！

〈草木染め〉

草木染めには、昔から糸のうちに染めて織るものと、布になってから染めるものの２通りがありました。昔はヨモギの汁で青梅色に染め、青クルミの皮をつぶした汁や、コナシ（ズミ・コリンゴ）などの汁の中に布を入れると金茶色の素晴らしい色に染まりました。中でも6～7月頃見られるクルミの青い皮は絹糸を染めるのにはもってこいで、色は落ちぬしきれいだし、こうして工夫して自然のものから染めていました。そのうちに絞り染めも考案され、布をつまんで糸で固くしばったり、木の葉を使ったりして工夫をこらして、名前や文字までが芸術的に染められるようになり、素人とは思えないほど手際良く作る人もいました。今はその方たちも少なくなり、せっかく苦労してあみだした技術もあまり使われなくなり、もったいないような気がします。草木染めは色が落ちてきたらまた、染め直すことが出来、季節ごとに自然な色を楽しむことができます。

小川守人著「箕輪の磊々」から引用

★イベントのお知らせ★

夏のイベントもいろいろと開催します♪

ご家族・お友達と・またお一人でも、ぜひお気軽にお越し下さい

詳細は新聞、みのわメイト等でお知らせしますので、ぜひご確認ください。

●戦後８１年展●

★８月１日（土）～９月４日（金）　エントランス展示

戦争関連の資料を展示します

夏季展示

●“とある埋甕（うめがめ）”●

★７月２５日（土）～９月２７日（日）

縄文時代の埋められた土器

“埋甕”（うめがめ）を夏休みに見てみよう！

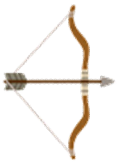
●夏休み　まが玉・弓矢体験会●

★８月１日（土）　９時～１６時

対　象：子ども・親子

♥**まが玉づくり** ９時～、１０時～、１１時～、１３時～、１４時～、１５時～

- **定員４８名**（各回８名×６回）
- **事前申込制**（定員になり次第締め切り）
- **申込開始日**：７月１７日（金）～　LOGOフォームで申込
- **費用**：１００円（材料費）がかかります



♥**弓矢体験**　博物館前庭　９時～１６時まで　参加申し込み不要

お問い合わせは、博物館まで　TEL79-4860

発行元：箕輪町郷土博物館

箕輪学クイズに挑戦！！

（1）右の土器のようなくるくるとした模様の事を何と言うでしょう？

① うずまきもん　　②からくさもん　　③めがまわるもん

（2）箕輪ダムがためている水の量は？

① ８３０万㎥　　②９３０万㎥　③１０３０万㎥

（3）箕輪の方言で“あつけってー”はどんな意味の言葉でしょう？

①手が熱い　②暑くてくるしい　③　こっちにボールけってー

★こたえ★

（１）②・・唐草文（からくさもん）ツル植物の伸びていく様子を模様にしたものとも言われています。強い生命力から「長寿」や「子孫繁栄」の意味でえんぎのいい模様としてつかわれています。博物館にある土器の「からくさもん」を探してみてね。

（２）①・・学校のプールの水を毎日取り換えても１１０年かかる量です。ダムの水を処理して、各地へ送っています。水も自然の恵みです。水道から出る水も大切に使いたいですね。

（３）②・・「夜あつけってーから掛け布団をはねのけた」や「いつもより外はあつけってーない」など、暑い日に体が暑くてくるしい様子を言った方言。

ほどよく暖かいときは「あったけー」と言います。

発行元：箕輪町郷土博物館